

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第92号 2021年9月

発行人：後藤 克彦 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684

第22回定時総会を書面で開催

会長挨拶

目黒稲門会会長 後藤克彦

会員の皆様、コロナに負けない毎日を送っていらっしゃることに存じます。私自身、2回のワクチン接種を受けましたが、「一人または少人数で空いた時間に。すれ違う時は距離をとる。混んでいる時間を避ける。」をモットーに体力作りのため、マスクつけての裏道散歩する毎日です。緊急事態宣言が解かれてから、多くの店が開き始め、街頭に出る人も多くなり、人の動きが活発化しています。「もう大丈夫だ。私だけは大丈夫だ。」と思い込み、気が緩んだ時こそ気をつける時です。郵送による俳句部会を除く各部会の活動を中止しておりますが、メールおよびZoom茶話会では希望する会員相互の話題作り等もしております。積極的な参加をお願いします。今こそ会員相互の結束が必要です。会報への投稿もお願いします。健康に留意して、元気に再会できることを楽しみにしております。

さて、本年もコロナの影響で、やむなく一堂に会しての第22回定時総会・懇親会につきまして中止とし、書面による決議をお願い致しました。皆様のご協力により、お陰様ですべて原案通り決議頂きました。コロナ禍による非常時とはいえ、皆様の温かいご支援に改めて感謝申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康に留意され、元気に再会できることを楽しみにしております。

第22回定時総会について

本年もコロナの影響で定時総会は、電子メールおよび葉書で実施され、懇親会は中止となりました。

承認事項(2020年度事業報告・決算/監査報告。2021年度事業計画(案)、予算(案)および人事(案)に関し、承認諾否をお願い致しましたが、在籍者138名中、71名の会員にご回答頂き、回答者全員より『諾』の回答を頂きましたので、決議が承認されました。(吉野 記)

新入会員とのオンライン懇談会開催

コロナ禍の中、昨年および本年に13名の新入会員を迎えましたが、総会、新年会および「よん月会」が見送りとなり新しい試みとして「お散歩がてらご挨拶」企画を4月3日に開催しましたが、5月1日、6月5日の開催は「緊急事態宣言」発出のため中止となりました。また、7月3日は緊急事態宣言解除後の感染拡大傾向鑑み中止とし、オンライン(Zoom)にて、2020年～2021年の新入会員を対象とした役員との懇談会を開催、新入会員2名、役員8名が参加しました。

吉野博明事務局長の司会により開会、始めに後藤克彦会長より歓迎の挨拶がありました。続いて出席者全員より自己紹介を行い当会活動についての説明および質疑応答を行いました。

中締めは、金井幹事長の挨拶と参加者への謝辞の後、お開きとなりました。

今回、都合により参加出来なかった方々のために、今後随時オンライン懇談会を開催しますので奮ってご参加ください。

懇親会出席者(敬称略、五十音順)

石川智子、*泉実紀子、金井豊男、狩野俊夫、川崎秀一、小杉 哲、後藤克彦、*正木英恵、吉田博行、吉野博明 (*印：新入会員)



(金井 記)

阿部喜久雄会員を偲ぶ

当会の最長老である阿部喜久雄会員が6月5日98歳でご逝去されました。3名の方から阿部喜久雄会員を偲ぶご寄稿をいただきました。

服部尚彦(昭和35年 理工)

阿部先輩の学徒出陣の手記を見つけて頂いて感謝致します。目黒稲門会の講演の時は、時間ばかりが気になって、良く何うことが出来ませんでした。

阿部先輩は故樋口先輩と共に目黒稲門会のために貢献いただいたし、多くの催事に積極的にご参加頂いたので、後輩として非常な親しさと尊敬を感じており、思い出も多く残された御両名でした。

阿部先輩には、何回か学芸大学駅でもお会いできましたが、一回銀座のソニービルを上から階段をおりていた時に、素敵なお品店で買い物をしていた阿部先輩に偶然お会いしました。その後、銀座不二家の喫茶店に誘って頂いて、ご馳走になった奇遇的出会いであり、心に残る思い出となりました。

樋口先輩も、私に年をとっても、かく有りたいと心に刻みつけてくださった方でした。その一つは私ども後輩に会っても帽子を取られて挨拶されるのです。私にとって、アー、かく有りたいと強く心に残っております。

御両名の尊敬する先輩に心からの哀悼を捧げます。

浅海敏之(昭和34年 政経)

吉田前会長から阿部大先輩がお亡くなりになりましたと、訃報をいただきました。

樋口大先輩と阿部大先輩には、目黒稲門会設立にあたり、大変にご指導を賜り、お世話になりました。沢山の思い出の中から、一つエピソードをご紹介します。たしたいと思えます。

阿部さんは大変な愛妻家でいらっしゃいました。奥様の名前は皇后さまと同じ雅子さまで、若くて、可愛くて、それはそれはおきれいな方でした。稲門会の会合(新年会、旅行、グルメの会など)には、奥様同伴で、よく出席されていました。阿部さんは機会あるたびに、雅子は二度目の女房なんだと、言っておられました。確かに見た目では、阿部さんよりずっと若いし、だいぶ年の差があるのかなあと感じていました。ある年の新年会、目黒雅叙園の時だったと、思いますが、奥様が(花柳流? 藤間流? 若柳流? だっか、思い出せないのですが、名取でした)日本舞踊を踊ってくださいました。短い曲でしたが、それはそれは素敵な一幕でした。あの艶やかな姿は、今でも目に焼き付いています。その数年後、奥様は病魔に侵され、お

亡くなりになりました。早稲田大学の近くの、お寺でのご葬儀に参列させていただきました。その席で雅子様は阿部さんの最初の奥様だった事がわかりました。僕だけ? かも知れませんが、ずーっと信じていたので、ビックリでした。後日、阿部さんにだまされたと言ったら、ニヤニヤしているだけでした。

今頃、お二人は空の上で久しぶりに会って、仲良く、話に花が咲いている事でしょう。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

梶 恵作(昭和37年 政経)

この度、阿部大先輩の訃報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。

カラオケ部会で長年ご一緒させていただきましたが、コロナの始まる少し前に「歌はそろそろ終わりにするよ」といわれ、体調が思わしくない様子を心配しておりましたが、悲しいお報せを知った翌朝、ご自宅の近くまで行きそっと手を合わせました。

阿部さんは音楽に堪能で歌がお好きでした。昔の歌から最近の歌謡曲までレパートリーも幅広く部会ではお得意のタンゴをよく披露してくれました。私の手元に残っている阿部さんのリクエスト曲数は130曲に上ります。しかしその中に軍歌は一曲もありませんでした。

以前頂いた阿部喜久雄氏「太平洋戦争そして学徒出陣・・・」を改めて拝読しました。学徒出陣に至る時代背景、招集された青年達の複雑な想いなどが綴られております。

阿部さんの凛々しさの中にある思いやりと優しさに私は尊敬の念を抱いておりました。今は亡き樋口先輩、また昨年他界された石川純子さんともコンビを組んで、カラオケ部会の中心的な存在でした。これまで支えていただき本当に有り難うございました。ご冥福を心よりお祈り致します。



阿部喜久雄会員(前列中央)

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

俳句部会

第 135 回「俳句部会報告」

日時 2021年7月12日(月)郵送句会

(順不同)

川井素山	夏萩のトンネル透けて空青し
保井寶正	夏のタジャズ連弾の駅ピアノ
佐久間喬	一人づつ鎖伝ひて岩清水
丸山酔宵子	梅雨晴れ間稜線一筆山の郷
吉田啓悟	たつぷりと山の精気を漆搔 <small>うるしかき</small>
青木英林	水源を探り清水に辿り着く
山本草風	回診の医師の白衣の涼しさよ
佐久間たか子	捕虫網遊ばれてゐる子らの声
渡辺鯨波	捕虫網ことさら振つて年少児
後藤克彦	岩清水追ひて信濃の長き坂
原 晶如	青梅雨の懐紙につまむ和三盆

中原主宰の短評

夏萩のトンネル透けて空青し

徒長した萩のトンネルを通りつつ見る空の青さを書く。実際の空は白っぽいかもしれないが、脚色しても可

夏のタジャズ連弾の駅ピアノ

春よりは夏の方がリズムカル。ビートが利けばこのままでいいか、上五をもっと飛ばして「七夕や」でも、夕方を思わせるし

一人づつ鎖伝ひて岩清水

くさり場という難所あってそこを通らなければならないのに交替で水を呑む。人間が伝うのと水が岩を伝うのとかかっている

梅雨晴れ間稜線一筆山の郷

稜線で景の中に山々があることは明らか一だから再び山の郷といわず、父の郷、母の郷とかにして久しぶりに帰って来た感じにすればよい

たつぷりと山の精気を漆搔うるしかき

漆搔といっても木に刻みを入れて垂れてくるのを桶に集める一やる気になりますが、漆はかぶれる人には怖い

水源を探り清水に辿り着く

どこからこの水源(水をたたえている)は来ているのだろうと一探して歩くのも山歩きの一興

回診の医師の白衣の涼しさよ

手術(オペ)のときは緑とか一あるようだが白衣がやっぱり涼しい目にも

捕虫網ことさら振つて年少児

そんなに振っても捕るものが飛んでいる訳ではないので、小さい児は振るという動作が嬉しいのだ

麻雀部会

会員の皆様、1年半のご無沙汰です。昨年2月に、鶴野部会長から引き継ぎましたが活動自粛が続き、中々再開出来ませんでした。多くの方がワクチン接種2回を済ませた此の頃、再開に向け準備中です。

今迄と多少運営方針を変え、純粹に会員相互の親睦を図る趣旨から4回戦での点数を競う方式に改めます。会費は3,000円のみとし、上位1～3位および7位とブービーに賞品を提供します。

また、会場は目黒駅近辺を検討中です。再開日程が固まり次第、新規会員登録のためメールにてご案内する予定です。その節は是非、入会をお願いします。

麻雀部会長 村上 柊

囲碁部会

7月より、囲碁部会長を保井前部会長の要請により引き継ぐことになりました。長い間の囲碁部会長、ご苦労様でした。囲碁部会のメンバーの中で私が一番弱くかつ若輩ですので、私としては正直なところリーダーシップに自信がありません。ただ、永年、保井さんが築かれ確立された対外的な人間関係や諸々の方式と作業を大切にしていきたいと思えます。囲碁部会の皆さんにおかれましては、私のリーダーシップの欠如をサポートしていただきたく心より宜しくお願い致します。

さて、コロナ禍は囲碁部会活動にとっては、かなりの打撃です。囲碁は典型的三密競技だからです。今後は続々とワクチンや特効薬が発表されるものと思いますが、まだ数年は囲碁にとり逆風？な状況が続くものと思われれます。

そこで、先ず部会員のグループメールを作成・浸透させ、次にネットの囲碁サイトを通じて部会員同士の対局を図ることを企画しています。

具体的なイメージとしては、先のグループメールを通じて、対局者同士の都合の宜しい日時を設定して対局していただき、結果をグループメールで報告していただくという形態です。

現在上記企画を検討していますが、決定後すみやかに浸透を図り、秋にはリーグ戦を開始出来たら良いかなと思えます。当然、頭で描くようには上手くはいかないものと覚悟しています。

また、何かより良いアイデアがありましたらご教授の程お願い致します。

囲碁部会長 市川 亘

会員の広場

全日本マスターズレガッタ転戦記

井村正陽（昭和41年 商）

私は昭和37年大学入学式の日先輩に誘われてボート部(当時は漕艇部)に入部し、卒業までの4年間ボートに没頭しました。商学部卒業と言うよりボート学部卒業とも言えました。3年生の時にはエイト種目で東京オリンピックを目指し代表決定戦で決勝まで進出しましたが敗退し、惜しくもオリンピック出場は叶いませんでした。

卒業後は仕事にかまけて60歳の定年退職までほとんど競技としてのボートからは離れておりましたが、定年後すぐに早慶戦OBレースに出場する機会を得て30数年ぶりのボート活動となり、早慶戦OBレースには6年も連続出場しました。また、早慶OBでつくるWKマスターズローイングクラブにも参加し、週2～3回の練習に励むまでとなりました。

平成20年(2008年)に第1回全日本マスターズレガッタが開催されましたのを機にWKでもこれに出場しようということになり、私は第2回の長野県下諏訪でのレースからの参加となりました。その後は私にとって毎年の恒例行事としての全国行脚となりました。

全日本マスターズレガッタは年齢別のカテゴリーでのレースとなり、一番若いAカテゴリーは、27～35歳平均年齢で、大体5歳きざみでのカテゴリーとなります。現在の最高齢はKカテゴリーで83歳～85歳平均で、来年度にはLカテゴリーでの出漕も想定されます。私はFカテゴリー(60～64歳)から始まり、現在はJカテゴリー(80～83歳平均)での参加となっております。

記

1. 2009年6月第2回全日本マスターズレガッタ (長野県諏訪湖)

4月の早慶レガッタ終了後に、Fカテゴリーで稲門3名、三田漕5名での出漕が決まり、マスターズのレースは1000Mですが、早慶レガッタOB戦は500Mでしたので500M漕げれば勝るとの計画でした。レースは予定通り500Mまでは楽勝でしたが、500M過ぎたところでがっくり落ちて駿台(明治)にあれよあれよという間にぬかれてしまいました。非常に残念なマスターズ初戦となりました。

2. 2010年5月第3回全日本マスターズレガッタ (兵庫県城崎温泉)

昨年に懲りて1000Mの練習を積み重ねての参戦しましたが、惜しくも勝つことはできませんでした。城崎へはチャーターバスで片道10時間の移動で大変くたびれましたが、城崎温泉はご承知の通り、外湯巡りで有名で風情のある街で旅行気分を十分に堪能出来た4日間のローイングツアーでした。



3. 2011年6月第4回全日本マスターズレガッタ (埼玉県戸田漕艇場)

福島県喜多方市荻野漕艇場で第4回が開催される予定でしたが、東日本大震災のため一旦は中止となりましたが、急遽戸田でのチャリティーマスターズレガッタとして被災地への支援となりました。

レースは750Mという変則的となりましたが、我がWKは堂々の優勝を飾ることができました。

4. 2012年6月第5回全日本マスターズレガッタ (埼玉県戸田市)

4年に一度は戸田で行うことで、Gカテゴリーでの出漕となりました。

5. 2013年5月第6回全日本マスターズレガッタ (愛知県愛知池)

Hカテゴリーでの出漕でしたが、惜しくも2位となりました。トヨタ系列デンソーの研究所体育館での懇親会場はさすがトヨタ自動車と感嘆するばかりでした。

6. 2014年5月第7回全日本マスターズレガッタ (群馬県館林市城沼)

とにかく蒸し暑い大会となりました。Hクルーでのエイトは負けましたが、ナックルフォアでは稲門艇友会の先輩クルーとのデッドヒートを繰り返し、ほんの数センチ差で勝ち、先輩方を悔しがらせました。祝勝会のそば屋で酒が空になるほど痛飲しました。

7. 2015年5月第8回全日本マスターズレガッタ (鳥根県奥出雲町さくらおろち湖)

鳥根の「やまたののおろち」伝説が残る町でおこなわれました。往復は広島集合で中国山地を超えての

遠征の旅となりました。Hクルーエイト種目では負けましたが、クオードブル種目ではオーストラリア遠征チームに勝ち、溜飲を下げた大会でした。

8. 2016年

熊本で開催される予定でしたが、熊本大地震により延期となりました。

9. 2017年6月第10回全日本マスターズレガッタ (埼玉県戸田ボートコース)

4年に一度の戸田に戻っての大会となりました。この年からIカテゴリー(75～80歳平均)での出漕でこの年も負け。行きつけそば屋「国や」での残念会となりました。

10. 2018年5月第11回全日本マスターズレガッタ (熊本県菊池市斑蛇湖)

一昨年延期となった熊本での開催。エイト種目は負けましたが、ナックルフォアミックスでは優勝。女子の強さを実感した次第です。2年経過しても大地震の傷跡を目の当たりにして改めて地震の怖さを実感しました。

11. 2019年6月第12回全日本マスターズレガッタ (大阪府高石市浜寺コース)

浜寺コースは堺にも近く宿泊も堺駅の真ん前で大阪市内にも便利な場所でした。年を重ねてJカテゴリー(80～82歳平均)での出漕。今年も勝つことが出来ず残念至極となりました。仁徳陵等が世界遺産に指定された年で我々も見学しました。

12. 2020年5月

石川県金沢市津幡漕艇場。コロナ感染で中止。

13. 2021年5月

埼玉県戸田ボートコース。コロナ感染で中止。

以上、2009年から今年までの全日本マスターズレガッタへの参戦状況を記しましたが13年間に2回の大地震と新型コロナ禍で、2回の取りやめがあったことは、日本を取り巻く環境は3～5年に一度の大変動があることを痛感した次第です。

私もボートがあったればこそ毎年のように遠征の旅を経験出来ていることを感謝の気持ちで一杯です。

1週間で4単位取得

市瀬一江 (昭和37年 教育)

早大入学後、学習内容説明会で初めて体育が必要科目である事を知り驚いてしまい、どうするか迷いました。但し、4年間で8単位と云われ、急ぐこともないと思いましたが早く終えた方がいいねと友人と相談しながら決めました。

年間とシーズンに分かれていたので家庭教師のアルバイトとの両立を考え、シーズンを選ぶことにし

ました。登山、水泳、スキー、スケート等、色々ありましたが希望者が多く、抽選になると知りましたが、兎に角、ボートに申し込みをすることにしました。

2年生の夏で20歳だったと記憶しています。今から60数年前の事で良く覚えていませんが、福引き大売り出しと全く同じ方法でガラガラと機械を廻して赤い玉が当たりで参加出来ると聞いていたところ、何故か赤い玉が出てびっくり、どきどきでした。

全部で何名か分かりませんが、女子は私一人だけでした。夏休みに入り、荒川の艇庫(ボート部の合宿所)に集合し、朝9時から12時近くまでボートを漕ぐことになり、顧問の教授とボート部員の指導を受け、初めて「オール」なるものを手に、一からのスタートでした。休まずに来れば「優」をくれるとの約束を聞き、早起きをして一生懸命に荒川へ通うことにしました。

ボートはシックス(6人)とフォー(4人)の2種類があったと記憶しています。最初、メンバーは決まっていませんでしたが、段々と固定化され、同じメンバーでボートに乗ることになりました。レースが始まると男女の力の差が歴然となり、男子学生達が私がオールを持つことに反対して遂にコックスとなり、メガホンを片手に男子に命令する役目になって大きな声で叫び続けました。

当時、女子学生は、ほとんどいなくて「女の子」と呼ばれましたが大事にされ、良き時代だったかも知れません。

翌年はシーズンで登山を選び1週間、上高地でテント生活をしながら「槍ヶ岳」と「奥穂高岳」を制覇して4単位「優」もらいました。



ボート1週間で4単位、登山1週間で4単位「優」を取ったことは早大4年間の楽しい思い出となりました。

目黒シティーランのコースを完歩

吉田博行（昭和42年 政経）

昨年を目黒シティーランはコロナ禍で中止になった。今年は6月20日に11月28日（日）開催の発表があったが、8月6日にコロナ禍状況の急激的悪化のためシティーランは中止、代わりにオンラインハーフマラソンのみを行うとの計画変更の発表があった。

目黒シティーランについて、いろいろな経験談があり仲間内でにぎやかだ。2016年の第1回シティーマラソンに自分も参加したが途中で時間切れになって完走は出来なかった。再開したら、歳の所為にしなないで、参加したらどうかと盛り上がってきた。しかし、走るは無理。ならば、ウォーキング同好会のメンバーとして、10kmのコースを歩いてはどうかということになり、昨年、7月19日（日）の午後その挑戦を試みた。

（コース）我家→五本木交差点（駒沢通り）→環七交差点→医療センター（自由通り）→中根交番（目黒通り）→都立大学駅前→環七柿の木坂陸橋→目黒郵便局前→元競馬バス停→大鳥神社交差点（山手通り）→目黒警察署前→正覚寺交差点（駒沢通り）→目黒区役所→祐天寺→五本木交差点→我家

距離約13km、歩数約16,000歩、所要時間約3時間、駒沢通りを環七に向かい緩やかな登り。環七を越えると呑川緑道の下り坂、東京医療センターを左折、自由通りは登り下りが2か所、中根交番から左折して目黒通りへ入り、都立大学駅前まで緩やかな下り、柿の木坂陸橋に向かったの辛い上り、イオン前、目黒郵便局前、大鳥神社までの緩やかな下り、平坦な山手通りを正覚寺の交差点で左折駒沢通りへ入り、目黒区役所までの急な上りと意外と起伏に富んだコースであった。車道でなく、歩道は思ったより凸凹や障害物もあり競技の実際より距離は長くなってしまふ。

歩きながら、経験した第1回シティーランが思い浮かんできた。途中まで自転車に伴走してくれたK君、あの角でのI夫人やK夫人の応援、あの歩道からY先輩の励まし、レースを断念した柿木坂下の駐車場などなど……

沿道の応援は如何に励みになるか、沿道の応援がないと歩いてしまうが「ガンバって!」と声が掛かると何となく走りだす。その繰り返しだったのでないか。マラソン選手の気持ちが判るような気がする。

マラソンコースを走るのではなく、歩いて完走でなく完歩するのもいいものだった。次は、オリンピックコースは無理としても皇居一周ぐらいへの挑戦

もよさそうだ。



目黒シティーランコース

凡例：⑥ km

相続よもやま話 その3

尾崎 充（昭和63年 政経 公認会計士・税理士）

相続の仕事に関わっていると本当にたくさんのトラブル、間違い、勘違い、あるいは「こうしておけば良かったのに～」と言う様なケースに遭遇します。

相続にまつわるこの様なあるある事例を紹介してゆきたいと思います。

目黒稲子さんは結婚歴がなく子供もいない80歳になる方です。主な財産は自宅マンション（相場3千万円）と預貯金約8千万円を保有しています。推定相続人は弟の目黒稲男さん74歳と亡くなった姉の娘である姪の品川花子さん55歳（代襲相続人）の2人です。

目黒稲子さんは2年ほど前に身の回りの事が自分ではできなくなってしまい姪が面倒を見ていましたが、ある日、姪の品川花子さんは預貯金8千万円をどうにか自分のものにしたいと思う様になりました。

姪は公正証書遺言で自分だけに相続する旨の遺言を書くように目黒稲子さんを説得しましたが目黒稲子さんは決して首を縦にふらず弟である目黒稲男さんと半分であれば良いという事で公証人役場にて公正証書遺言を作成しました。

それから数か月後に目黒稲子さんは高齢者施設に入居し預貯金の入出金を姪が行う様になりました。さらにその3年後に目黒稲子さんは老衰で亡くなりました。

49日法要等も終わった頃に目黒稲男さんは品川花子さんに相続財産である預貯金の詳細について聞いたところ預貯金は介護等にすべて使ってしまったもう何もないという一点張りで預貯金の内容を一切開示しませんでした。目黒稲男さんは困ってしまいました。その後どうなったかの続きは次回以降に書きますね。

（注）ありがちな事例を架空の話として作成しています。

（教訓）財産を 身内に任せて あら怖い

目黒わが町自慢

平町 中西元樹（平成16年 法）

目黒区の南部に位置する。町域西部は中根、東部は碑文谷/南、北部は柿の木坂、南部は大岡山にそれぞれ接している。

平町1丁目、2丁目の2区域で構成されており、2021年（令和3年）4月1日現在の世帯数と人口は、1丁目が約2000世帯、4000人弱が、2丁目は約1500世帯、3000人強が暮らしている。

現在の平町・大岡山一帯は江戸時代には荏原郡衾村字平根に属した。字平根は明治に入り平を冠称する数多の字に分割されたが、この内字平前・字平南原・字平北原・字平稻荷丸が1932年（昭和7年）に目黒区平町となった。1965年（昭和40年）に住居表示が実施され、現在に至る。

公立学校は大岡山小学校があり、区内の小学校の中でも人気の高い学校である。私立学校としては、2021年に創立110年を迎える志のぶ幼稚園がある。

最寄の駅は、東急東横線都立大学駅、東急大井町線大岡山駅となり、横浜や渋谷、新宿・池袋と有名な繁華街へのアクセスが容易である。また、大きな幹線道路である環七が東側に、目黒通りが北側に走っており、バス停留所も多く、交通の便がいい環境である。

駅前には南北にそれぞれ商店街が伸びていて、特に南側の「中根小通り」は飲食店やミニスーパー、コンビニなどを中心に様々なお店が揃っており便利で、駅から5分ほどで住宅地に入ってしまうため、基本的にはこの駅前での買い物が生活の中心となる。

西部と中根の境は「呑み川緑道」が走っており、緑道に近い1丁目には創建年代不詳の櫻森稲荷神社（一帯に桜が多く桜盛稲荷と称される・写真）があり、2丁目と大岡山1丁目の境、呑川遊歩道の中里橋から「鉄飛坂（てっぴぎか）」と呼ばれる東へ上る急坂がある。坂上の北側には、帝釈天堂があり複数の庚申塔が堂内と境内にある。

幅広いアクセスの良さに加え、碑文谷警察署が近くにあるため治安が良く、緑道に接した環境で、住みやすいエリアである。



目黒の銭湯巡り

みどり湯 永井正孝（昭和43年 法）

東急東横線/大井町線・自由が丘駅北口の飲食街を抜け、緑が丘方面へ5分ほど歩いて、ヤマダ電機の先を左に曲がったところにある。現在、区立緑ヶ丘小学校、緑が丘児童館、緑が丘図書館等に囲まれている。

「みどり湯」創業者の初代は石川県七尾市ご出身。昭和初期、東急東横線開通後の自由が丘で銭湯を開業した。昭和30年（1955年）代、2代目と共に自由が丘で「睦湯」、「東湯」ほか2軒を経営。「東湯」で撮影された写真には、浴室に亀屋万年堂など今でも続いている当時の自由が丘のお店の広告看板が写っており、当時の銭湯の集客力を物語っている。

『東湯』は昭和27（1952年）～平成元年（1989年）10月まで営業。昭和51年（1976年）、「東湯」は、自由が丘駅北口からすぐの飲食店街に建て替えをしたビルの2階にあった。

昭和32年（1957年）、麦畑に囲まれて夏にはホテルが飛び交っており、大手精密メーカーの家族寮や寄宿舎が点在していた現在の地に「みどり湯」が開業、今日まで、自由が丘の街で心地よい空間とお湯を提供し続けている。

大浴場は男湯・女湯共、ジャグジー風呂（銀色の枕は、中には水が入っていて、冷たくて気持ち良い）、パイプラ湯（温度は、41～42度位）、サウナ（遠赤外線サウナ、追加料金200円。広さは6～8人位）、水風呂（2人位の広さ、サウナの隣にある）、シャワー（いろんな場所から水が噴出するシャワー、サウナの隣にあり、水シャワーとお湯シャワーのどちらも選べる）がある。男湯はオーソドックスな白富士で、女湯は黄金富士のペンキ絵が描かれている。男湯と女湯の間には桜の木が描かれている。

四代目の女性オーナーは、「人と人がつながり、リラックスできる空間にしたい」と、隣接地に「gallery yururi」と「茶室」を2016年にオープン、`銭湯×ギャラリー×茶室`という銭湯の新しい楽しみ方を提案している。



会員ギャラリー

『吹き出す意思』 油彩 M60号
杉浦良允（昭和41年 政経）



この作品は十数年前から、このモチーフをもとにして継続して描いております。

形のシンプルさと連続性を主として描いているので、形と色に左右されます。何か湧き出るようなエネルギーを描きたくて数年かけて書いています。

単純な三角形と連続性の組み合わせは無限の広がりをみせてくれます。

さらに新しい形を模索しながら可能性を探っていきたい。

『向日葵』 写真
山内 宏（昭和56年 教育）



この向日葵の花の写真は、世田谷区の宇奈根の向日葵農園で撮影致しました。

東京都内では、中々見ることの出来ない素晴らしい向日葵畑なのですが、現在は、農園はお休みとのことで、見学は出来ないかも知れません。

この写真は、思わず笑顔になれるようなそんなところが気に入っています。

新入会員



石橋義久(昭和51年 商)
(千葉県東金市在住)

実家は千葉の外れの方ですが後藤会長にお誘いを頂き入会を決めました。もう70手前の歳になりますが運良く周りの方々に恵まれ東京で働かせて頂いております。今更という気持ちもありますがどうぞよろしくお願い致します。



北川敏行(平成6年 法)
(渋谷区渋谷在住)

知命を越え、世代を超えた親睦を深める機会に恵まれたことを感謝しております。どうぞよろしくお願い致します。



森下ふゆか(平成21年 国教)
(板橋区向原在住)

上司より紹介を受け、これまでOBOGとの交流が少なかつたため興味を引かれ入会しました。皆様との交流を通じて見聞を広げて行きたいと思っております。よろしくお願い致します。



杉村麻記(平成30年 社科)
(中央区勝どき在住)

この度、後藤会長にお誘い頂き入会させて頂く事になりました。在学時は、体育会剣道部に所属しておりました。目黒稲門会を通じて様々な事を学んでいけたらと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



大西真凜(令和2年 文)
(板橋区向原在住)

上司の紹介で入会させて頂くことになりました。昨年卒業したばかりの未熟者ですが、皆様、どうぞよろしくお願い致します

編集後記

東京オリンピックが無事に終了しました。開幕前にはとかくの議論もありましたが、始まってしまえば日本選手の応援に力が入りました。

1964年のオリンピックの時は高校生でした。同級生の川崎秀一会員と、渋谷の道玄坂の電気店で開会式をカラーで見ました。この時一番印象に残ったのは「東洋の魔女」女子バレーボールの金メダルでした。金メダル獲得数は16個で、今までこの記録は破られていませんでしたが、今大会は27個を獲得して記録を大幅に更新しました。(猪名川 記)